

ジェトロ「ビジネス短信」添付資料

表 ドイツにおける浮体式LNG貯蔵・再ガス化設備（FSRU）の導入計画

（単位：億立方メートル/年）

主体	設置州	設置都市名	運営者	稼働予定	再ガス化容量
政府	ニーダーザクセン	ウィルヘルムスハーフェン	ユニパー	2022年末	50以上
	シュレスビヒ・ホルシュタイン	ブルンスビュッテル（注1）	RWE	2022年末	50以上（注2）
	ニーダーザクセン	シュターデ（注1）	ハンセアティックエネルギーハブ	2023年末	50以上
	メクレンブルク＝フォアポンメルン	ルブミン	RWEおよびスシュテナパワー	2023年末	50以上
	ニーダーザクセン	ウィルヘルムスハーフェン	TES、エーオン、エンジー	2023年末	50以上
民間	メクレンブルク＝フォアポンメルン	ルブミン	民間コンソーシアム	2022年末	45

（注1）ブルンスビュッテルとシュターデのFSRUは、陸上LNGターミナル（[2022年3月15日](#)、[2022年3月11日記事参照](#)）が稼働するまでの間だけ稼働させる予定。現在はLNGターミナルの稼働開始が2026年に予定されている。

（注2）再ガス化容量は2022年の冬には年間35億立方メートルのペースを見込む。55キロメートルの新たなガスパイプラインを敷設後、2023年末からは年間を通して50億立方メートルの再ガス化が可能となる。

（出所）経済・気候保護省よりジェトロ作成